

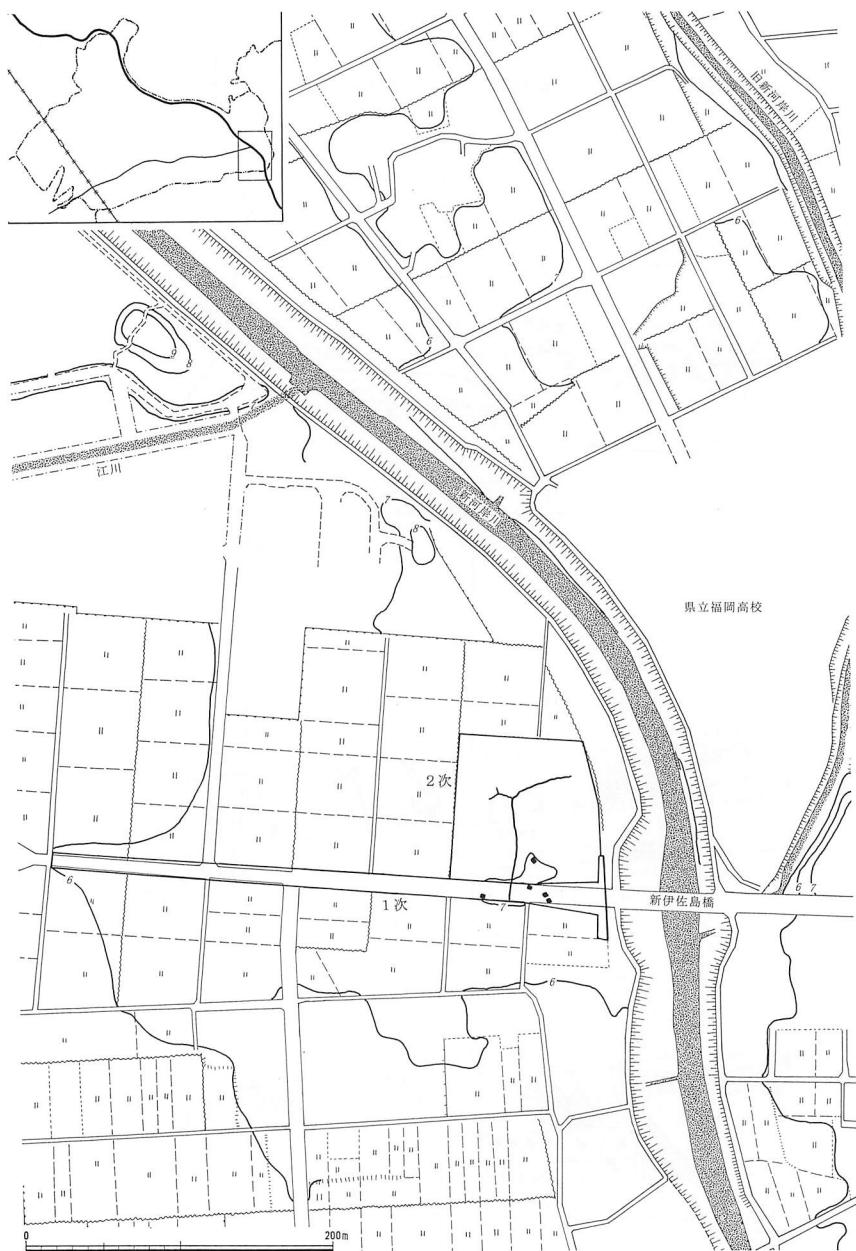
II 考 古



○伊佐島遺跡第1次2号住居跡（第10-6図参照）

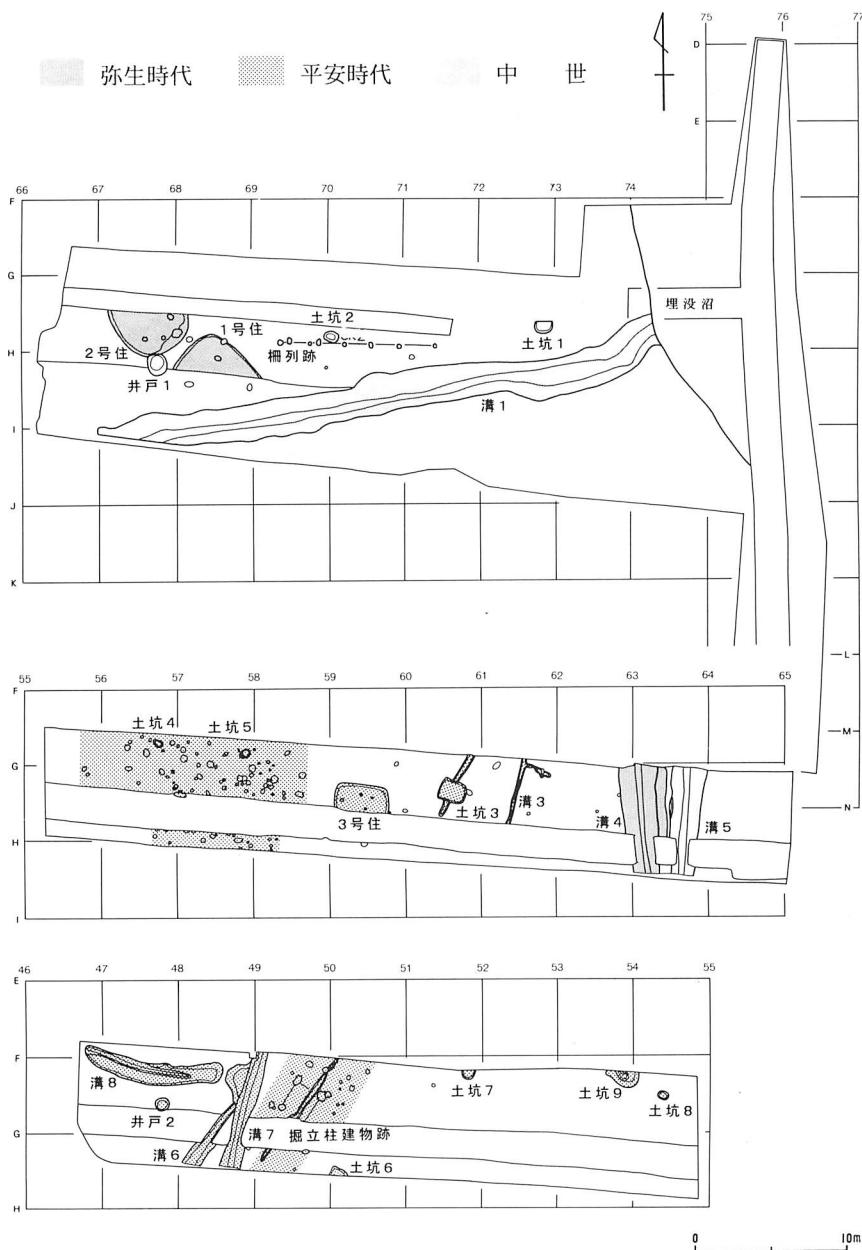


○伊佐島遺跡第2次調査全景（第10-3図参照）



第10-1図 伊佐島遺跡調査地点全体図〈1/5000〉

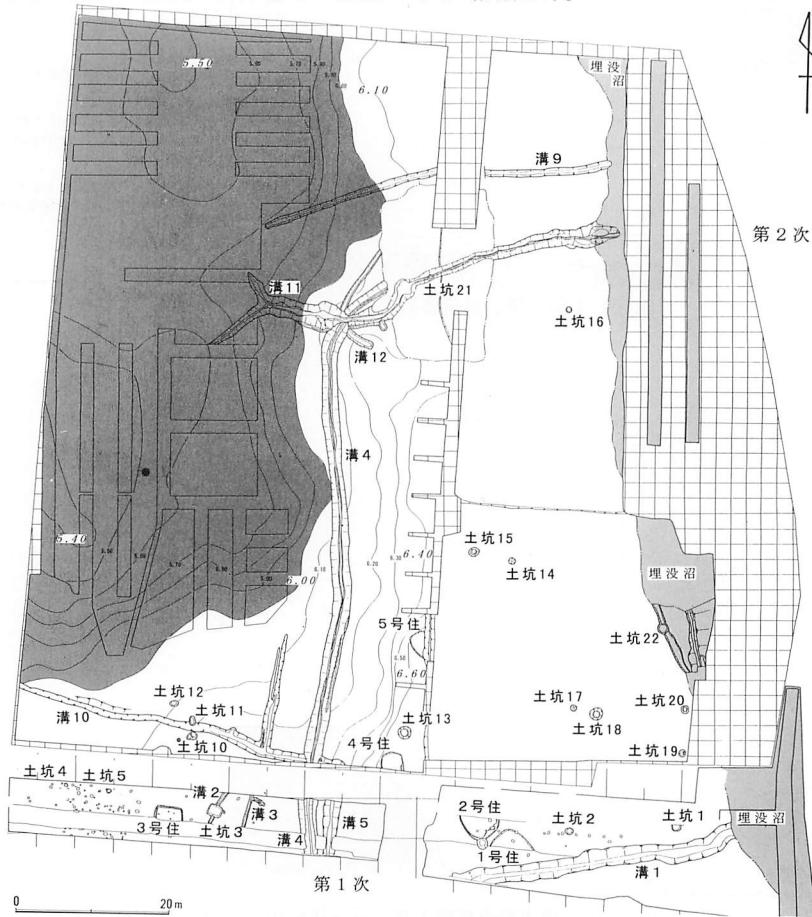
II 考 古



第10-2図 伊佐島遺跡第1次遺構配置図 <1/500>

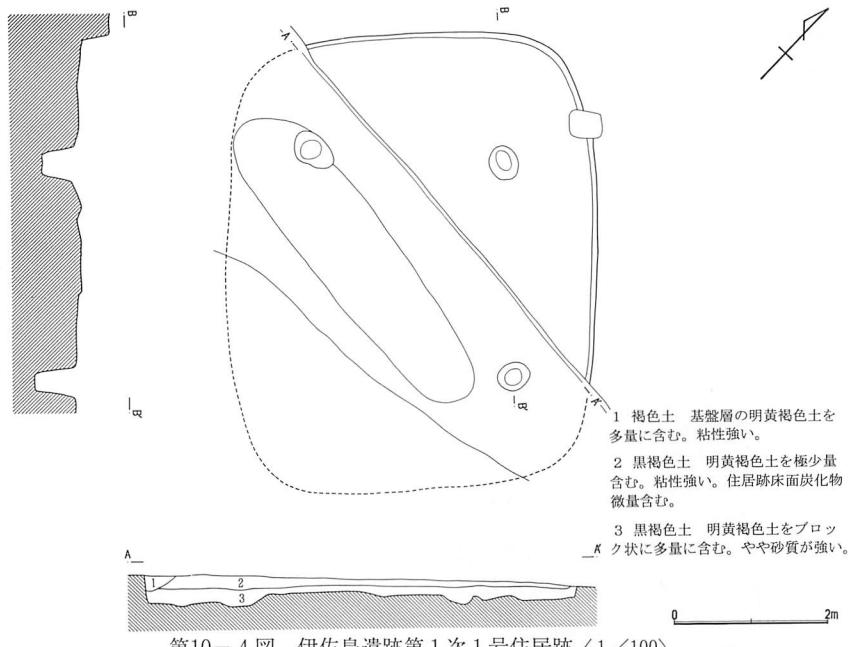
の遺物等が出土し一層明確になった。後年、富士見市側で2地点が発掘調査されたが、遺構は検出されていない。

その後、1991（平成2）年11月～翌年3月に、県道東大久保大井線の改良事業に伴い、埼玉県埋蔵文化財調査事業団により発掘調査が実施された。調査対象は道路幅ながら3000m²に及び、確認された遺構は、弥生時代後期の住居跡2軒や環濠の一部をはじめ、平安時代に属する住居跡1軒・掘立柱建物跡1棟・土坑・溝・柱穴群、さらに中世の居館跡を推定させる溝・柵列跡、そして近世の土坑・井戸跡など豊富である（文献55）。

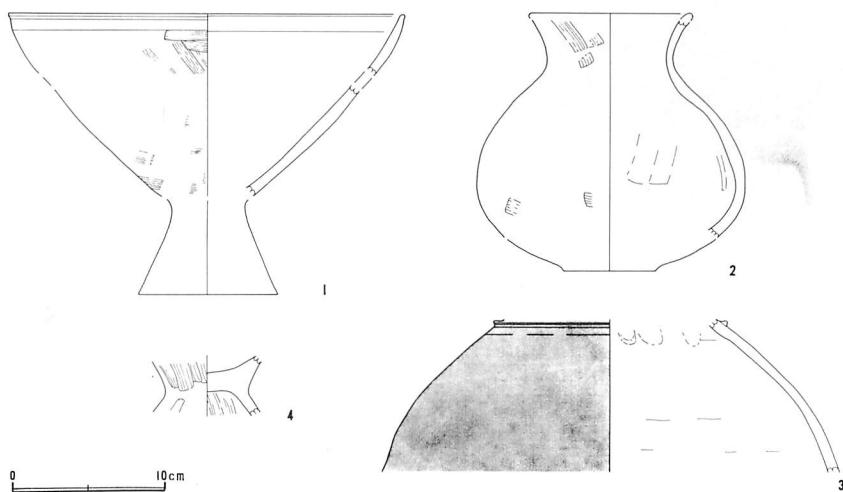


第10-3図 伊佐島遺跡第1次・2次遺構配置図〈1/1000〉

II 考 古



第10-4図 伊佐島遺跡第1次1号住居跡〈1／100〉

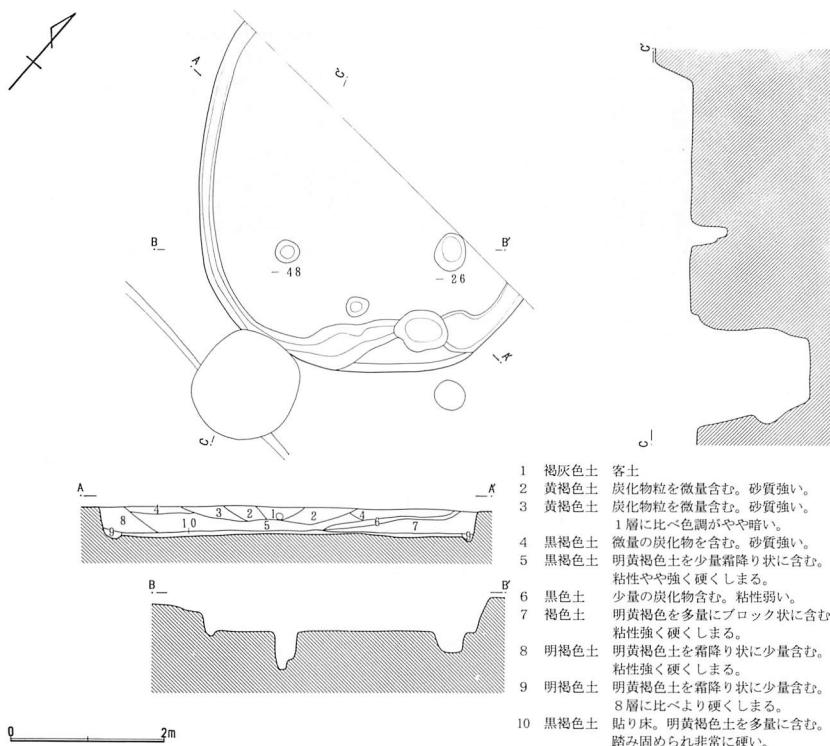


第10-5図 伊佐島遺跡第1次1号住居跡出土土器〈1／5〉

また、1995（平成7）年4～9月には、特別養護老人ホームの建設に伴い、上記の北隣8930m²が発掘調査され、先に続く弥生時代の環濠や住居跡（2軒）をはじめ、平安時代の溝跡、江戸時代末の溝跡や瓦片を埋めた土坑などが検出された。これまで市域には弥生時代の遺跡は見つかっていなかったが、これにより沖積地での水田開発を伴う弥生時代後期の環濠集落（図18）の存在が明確になった（文献63）。

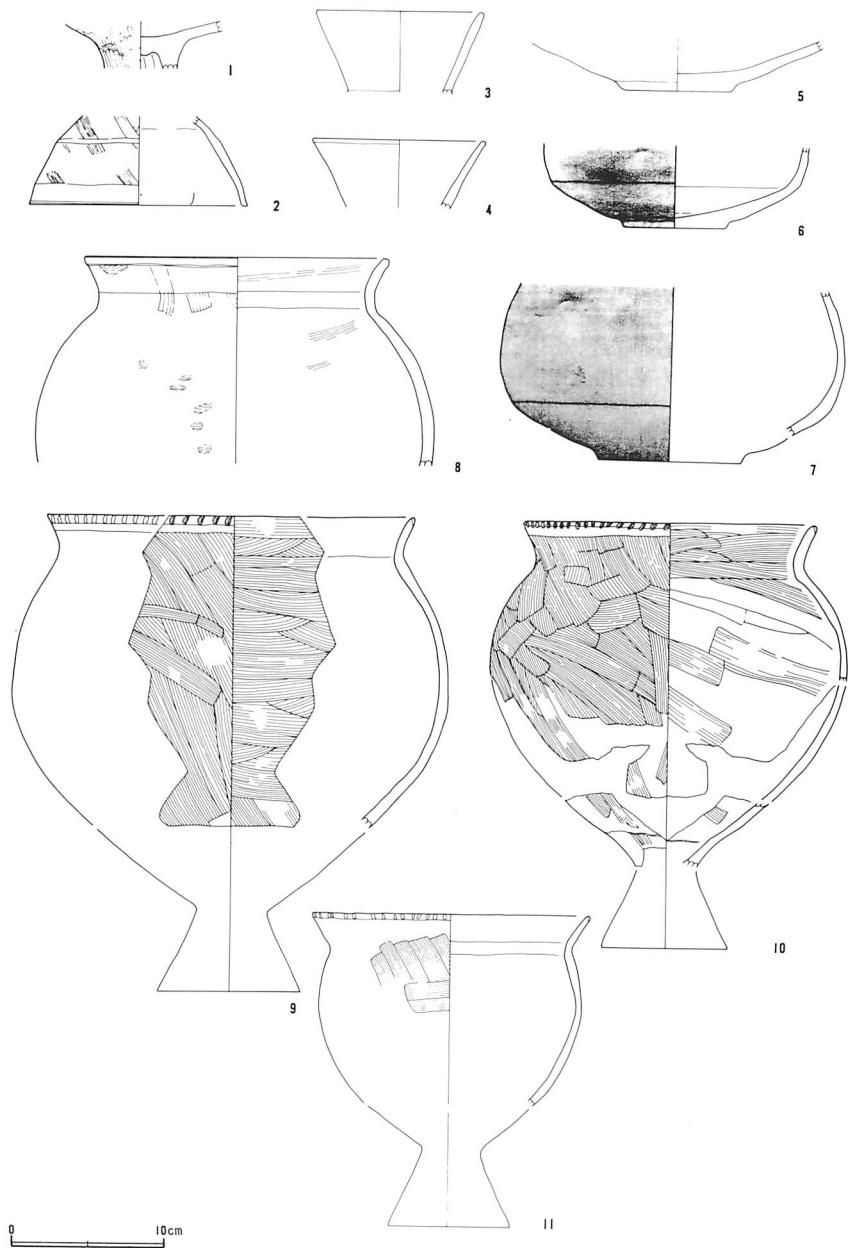
3 伊佐島遺跡の遺構と遺物

（1）弥生時代の集落



第10-6図 伊佐島遺跡第1次2号住居跡（1/100）

II 考 古



第10-7図 伊佐島遺跡第1次2号住居跡出土土器〈1／5〉

伊佐島遺跡第1次1号住居跡（第10-4図）

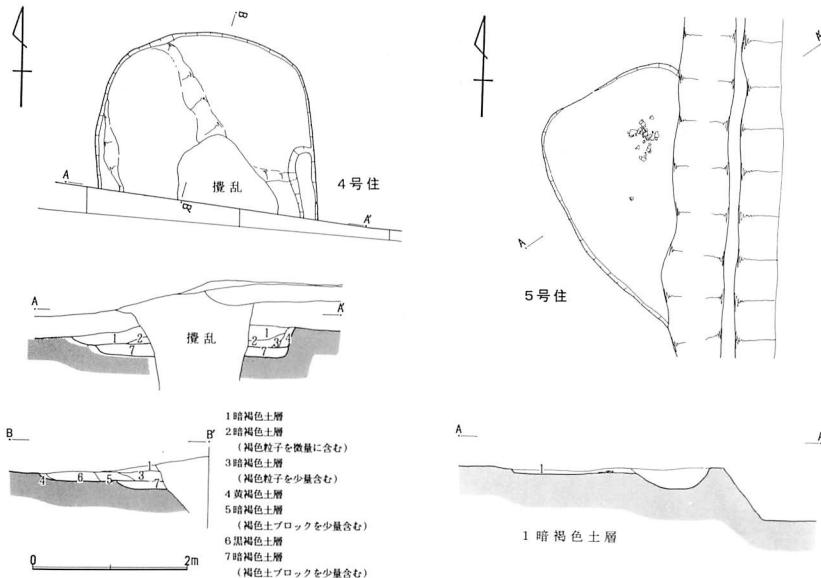
全体の1／3弱の調査である。南北4m80、東西6mの隅丸方形になると思われる。主柱穴は3本確認されている（文献55）。

出土遺物（第10-5図）は、脚部を欠く鉢（1）、口唇部と底部を欠く小形壺（2）、頸部との接合部に突帯をもち、赤彩が施された壺の胴上半部破片（3）、台付甕の破片（4）である。

伊佐島遺跡第1次2号住居跡（第10-6図）

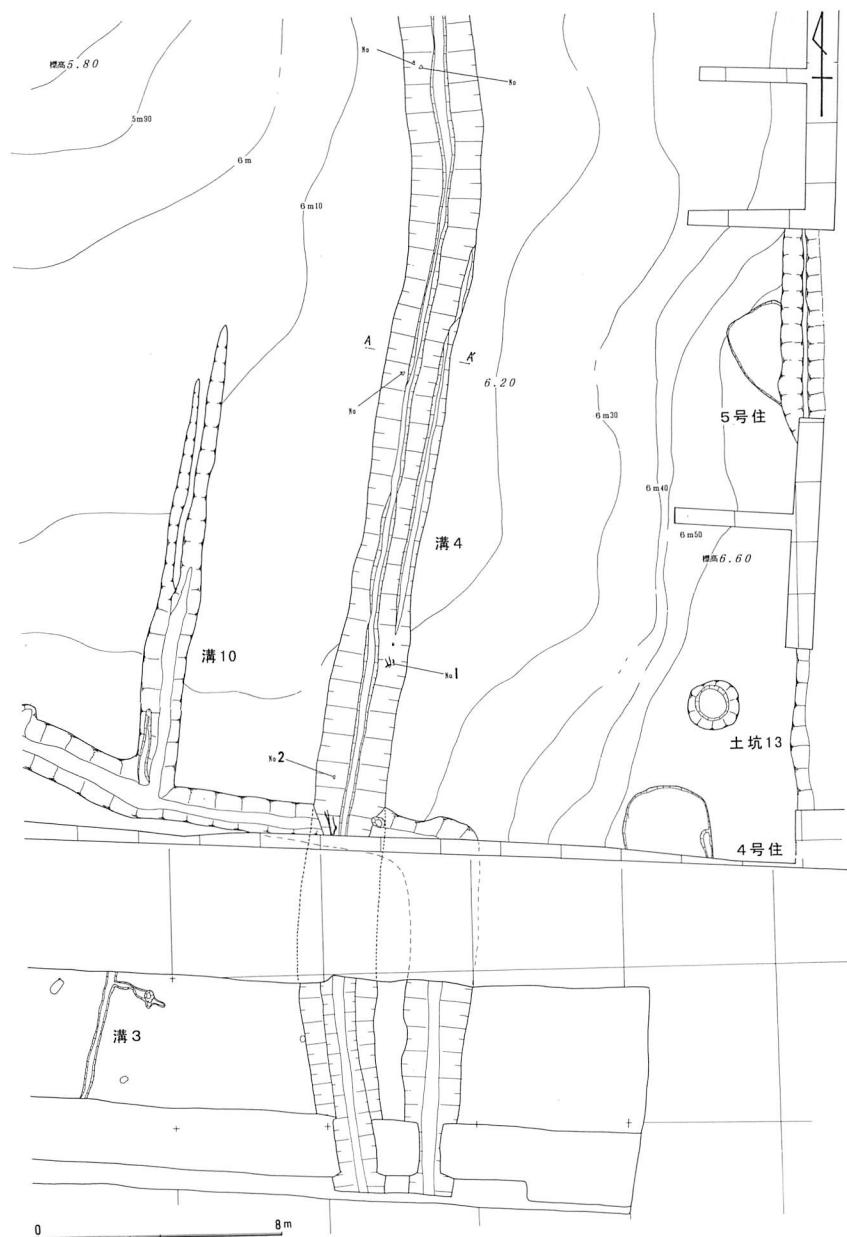
全体の半分程度の調査である。長軸6m、短軸4m50の橢円形の住居になると思われる。周溝は確認部分においては全周している。柱穴は2本見つかっている（文献55）。

出土遺物（第10-7図）は、高坏の坏部と胴部の接合部破片（1）、台付鉢の脚部破片（2）、壺の口縁部破片（3・4）、赤彩された壺の底部破片（5・6）および胴下半部の破片（7）、底部を欠く壺（8）、台付甕の破片（9・10）、脚部を欠く小形台付甕（11）が出土している。

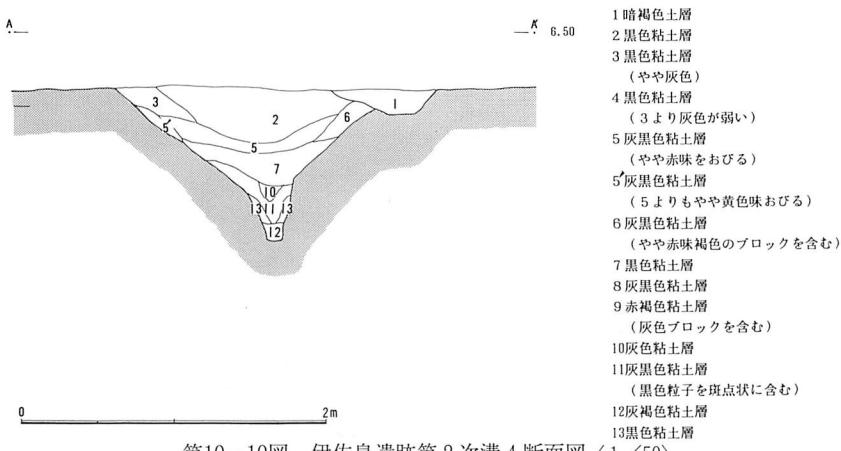


第10-8図 伊佐島遺跡第2次4号・5号住居跡〈1/100〉

II 考 古



第10-9図 伊佐島遺跡第1次・2次溝4 <1/250>



伊佐島遺跡第2次4号住居跡（第10-8図）

およそ半分の調査である。東西は2m80である。隅丸の長方形になると思われる。床面は中央部の40cm四方が良好に踏み固められているが、他は軟弱である。南東壁に周溝が見られるが全周しない。床面には柱穴や炉跡は見つかっていない。出土遺物は壺の破片が少量出土したにとどまる。これらは図化できない（文献63）。

伊佐島遺跡第2次5号住居跡（第10-8図）

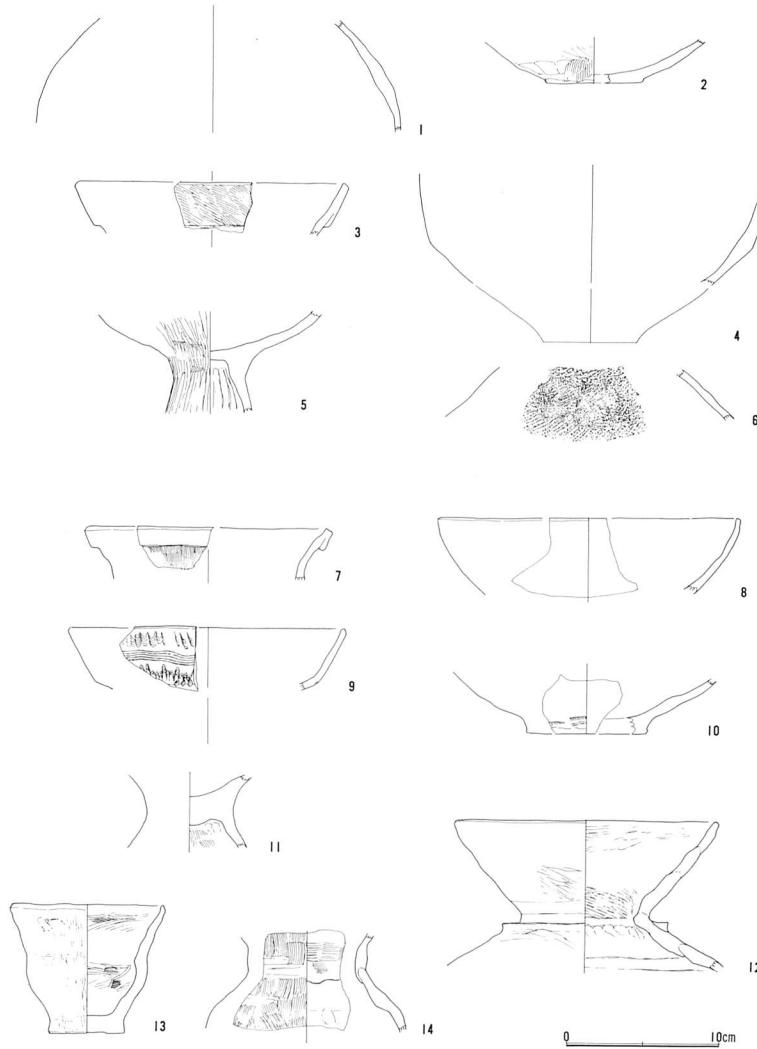
半分程度の調査。全体は東西2m30、南北3m～3m30の隅丸長方形になると思われる。床面はほぼ水平で中央部が良好に踏み固められているが、他は軟弱である。柱穴、炉跡、周溝は確認されていない。床面で中央北側に壺が1個体潰れて出土しているが、図化できなかった（文献63）。

伊佐島遺跡第1・2次溝4（第10-9・10図、口絵18）

幅1m60～2m40程、深さ1m～1m10のV字状断面の溝である。溝11と交差する辺りで東へ緩く屈曲しているが、その先は不明である（文献55・63）。

出土遺物（第10-11図）には、壺の破片数点が挙げられる。胴上半部破片（1・6）、底部破片（2・10）、折り返し口縁部破片（3・7）、胴部破片（4）、頸部に突帯をもち、胴中位以下を欠く破片（12）である。他に高壺の破片（5）、台付甕の脚部接合部（11）、ほぼ完形の小形土器（13）、小形壺の頸部破片（14）がある。これらの遺物や溝の形態から当構造は弥生時代後

II 考 古



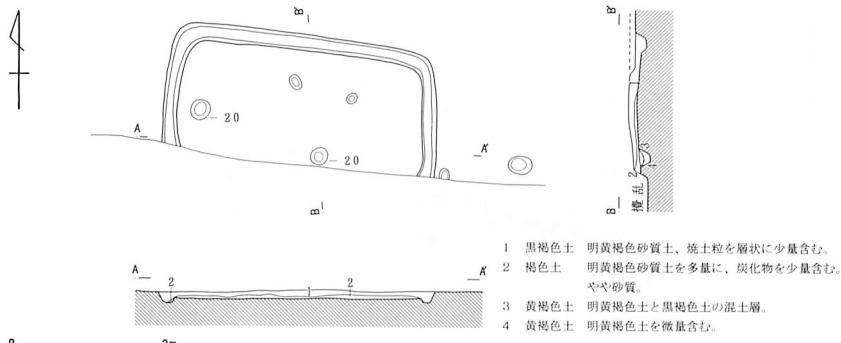
第10-11図 伊佐島遺跡第2次溝4出土土器〈1／5〉

期の集落を囲む環濠であったと考えられる。

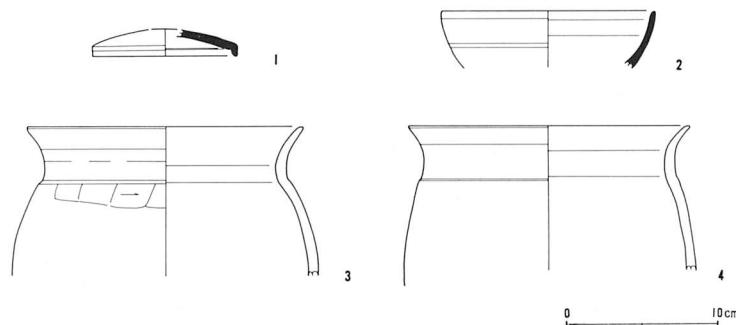
(2) 平安時代の集落

伊佐島遺跡第1次3号住居跡（第10-12図）

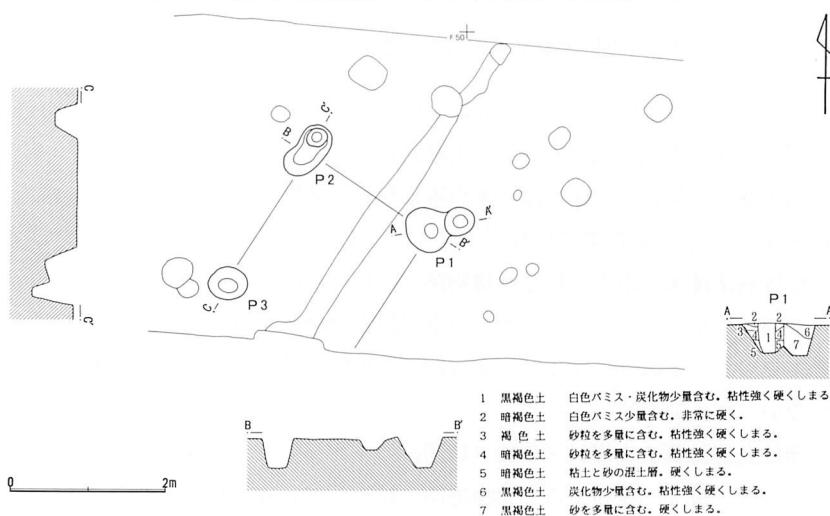
南側は攪乱により破壊されている。東西は3m60で全体は正方形になると



第10-12図 伊佐島遺跡第1次3号住居跡〈1/100〉

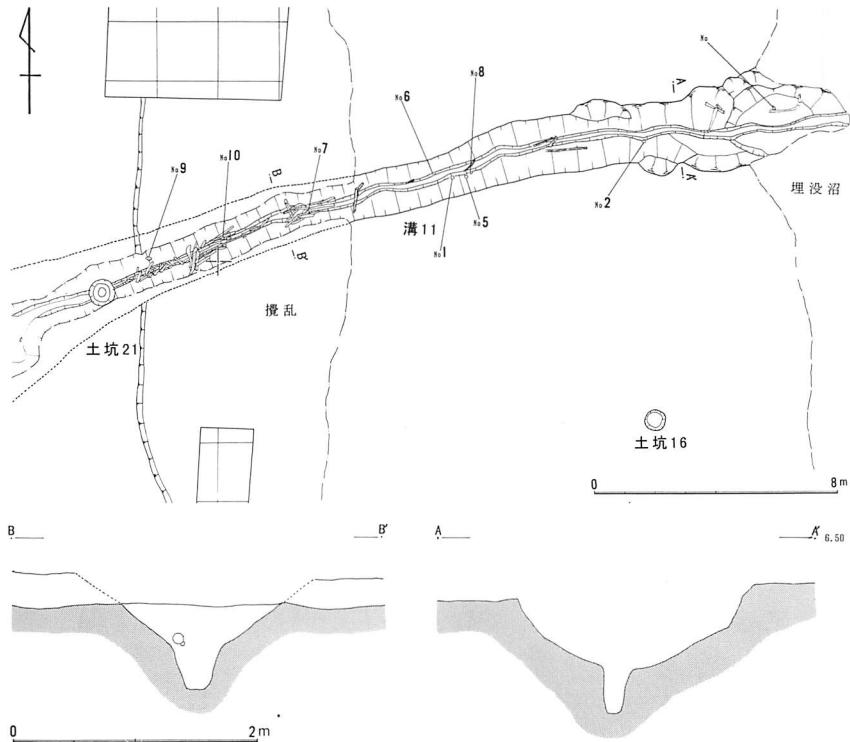


第10-13図 伊佐島遺跡第1次3号住居跡出土土器〈1/5〉



第10-14図 伊佐島遺跡第1次1号掘立柱建物跡〈1/100〉

II 考 古



第10-15図 伊佐島遺跡第2次溝11・土坑21 <1/250・他>

思われる。周溝は確認された部分においては全周している。主柱穴とみられるピットが2本見つかっている（文献55）。

出土遺物（第10-13図）は、須恵器小形蓋の破片（1）、須恵器壺の口縁部破片（2）、土師器甕の破片（3・4）である。

伊佐島遺跡第1次1号掘立柱建物跡（第10-14図）

2間（4m）×1間（1m90）の小規模な建物となるようである。柱穴は3本見つかっており、建て替えが行われた痕跡も見られる。遺物は出土していない（文献55）。

伊佐島遺跡第2次溝11（第10-15図）

E5区で溝4と重複する。東西方向に蛇行している。F5区からE5区にかけて大きな攪乱があり、攪乱土中には瓦破片が散在していた（文献63）。

II 考 古

伊佐島遺跡第1次溝1（第10-17・18図）

東西にはほぼ直線的に横走し、東端は埋没谷に流入している。推定箱薬研形で滯水していたようである。出土遺物は瀬戸美濃産卸し皿・瓶子、常滑産甕、須恵質鉢、転用砥石等多数見られ14・15世紀に属する。また、溝1の北側には柵列跡があり、溝にはほぼ沿うように1.8~1.9m間隔のピットが5間分確認され、溝1との関連が推測される（文献55）。

伊佐島遺跡第1次溝5・第2次溝10（第10-3図）

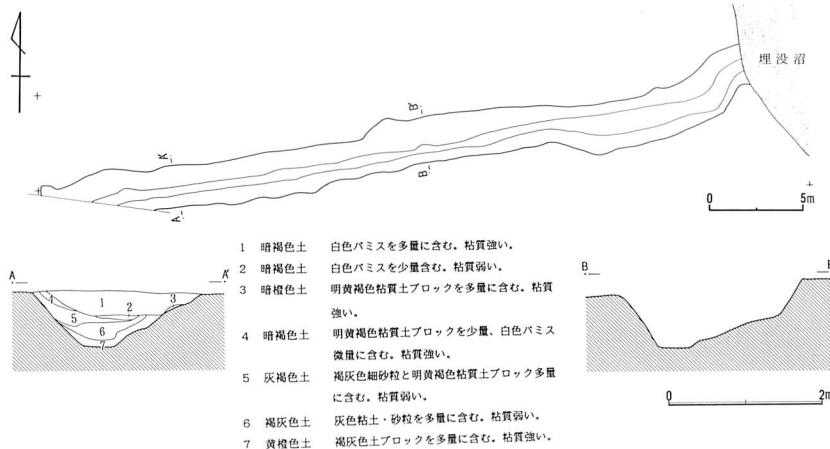
溝10は西から東へ流れ、南へ直角に屈曲し溝5となる。溝5で最大幅2.8m、深さ0.9mの箱薬研形。溝10で北側から小溝が流入する。出土遺物は溝10から肥前産染付碗・皿、瀬戸美濃産擂鉢、土師質火鉢等多くみられ、18世紀に属する（文献55・63）。

伊佐島遺跡第2次土坑13（第10-3図）

上面径1.7m、底径0.9m、深さ1.8mのロート状の井戸跡と推定される。深さ1.5m辺りから桶底と思われる直径11.5cmの木製品が出土している。他の遺物はない（文献63）。

伊佐島遺跡第2次土坑16（第10-19図）

上面径65cm、深さ60cmの円筒形で底面は擂鉢状の井戸跡と推測される。底面より桶底と思われる木製品が出土し、墨書痕があった（文献63）。



第10-17図 伊佐島遺跡第1次溝1 <1/400・1/100>

伊佐島遺跡第2次土坑18（第10-19図）

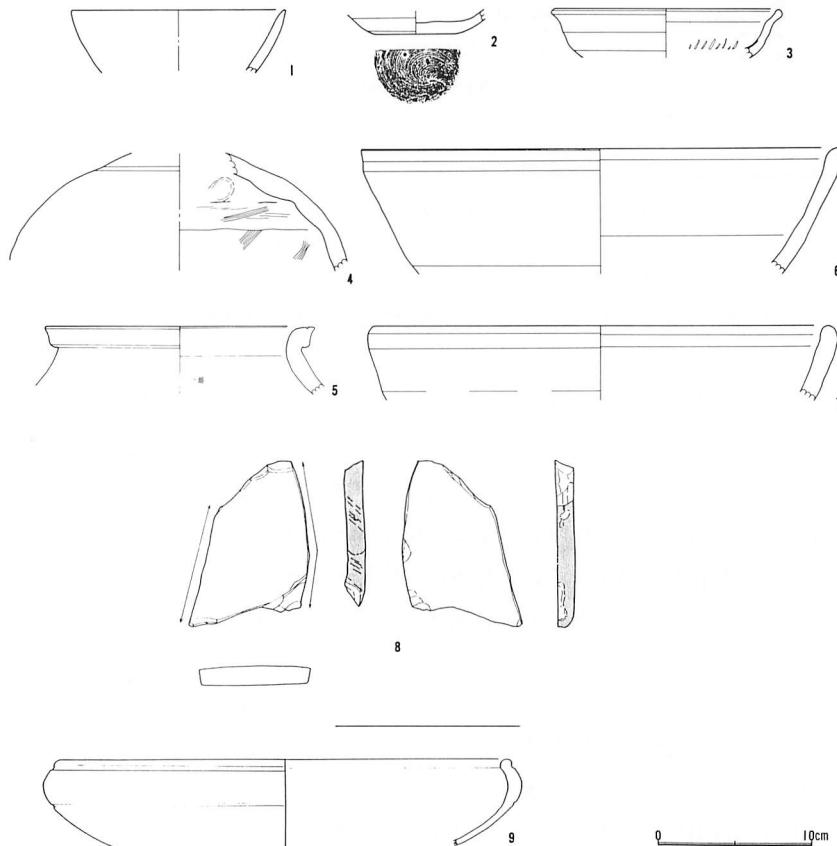
上面径110cm、底径85cm、深さ150cmのロート状の井戸跡と推定される。出土遺物はない（文献63）。

伊佐島遺跡第2次土坑21（第10-15図）

溝11の上面に見つかっている。上面径95cm、底径30cm、深さ60cmの擂鉢状である。近世～近代の棧瓦等の破片が充填されていた他、木製品が出土している。周囲の溝内からも近世・近代陶磁器類がみられた（文献63）。

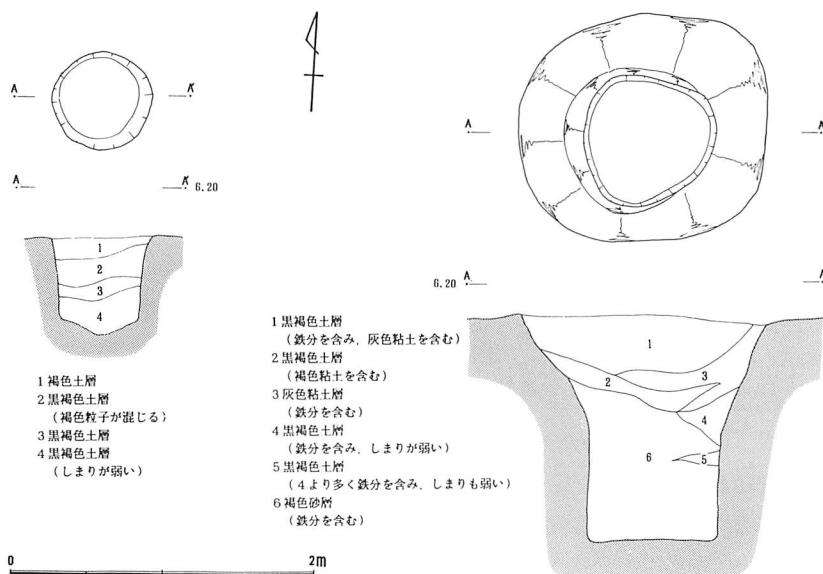
伊佐島遺跡第1次溝1・第2次溝11出土遺物（第10-18図）

1～8は中世、9は近世に属する。図示以外では中世の常滑産瓶子・壺等



第10-18図 伊佐島遺跡第1次溝1・第2次溝11出土遺物 〈1／5〉

II 考 古



第10-19図 伊佐島遺跡第2次土坑16・18〈1/50〉

の陶器、近世の肥前産染付碗・高台付皿、同青磁鉢、同象嵌鉢、瀬戸美濃産染付碗・皿、同織部風鉢・擂鉢、丹波系擂鉢、土師質火鉢等がある（文献55・63）。

1～8は第1次溝1、9は第2次溝11の上面出土である。1は瀬戸美濃産灰釉碗、2は瀬戸美濃産灰釉皿、3は瀬戸美濃産卸し皿、4は瀬戸美濃産瓶子、5は常滑産小甕、6・7は須恵質鉢、8は常滑産甕の底部を転用した砥石、9は土師質焰焰で18世紀後半頃に属すると推測される。

土坑21や溝から出土した瓦の種類は、棟瓦・丸瓦であるが、胎土は砂粒が多くやや粗い。焼成は軟質で灰色気味である。少し磨滅している（文献 本書）。

中世の遺構としては第1次溝1、第1次柵列跡等が確認されている。溝1の形態や出土遺物から屋敷跡と考えられるが、第2次調査区では、深さ1m程度削平されているため不確かである。

近世の遺構には第1次溝5・第2次溝10がある。